秋 葉 区

九条の会

№34　2011.6.27

秋葉区「九条の会」事務局
新 津 教 育 会 館 内
新潟市秋葉区善道町 2－9－44
Tel 0250-21-3691　Fax 0250-21-3692
http://9jo.iinaa.net/index.htm

改憲派、96 条改悪へまっしぐら！

民主、自由、公明、みんなの党、立ち上がれ日本などの党は、6 月 7 日憲政記念会館で「憲法 96 条改正を目指す議員連盟」の設立総会を開いた。約 100 人が出席し、改憲の発議要件を衆参各議員の「3 分の 2 以上の賛成」から「過半数」へ変えることを、当面の最大課題として取り組むことを決めた。

呼びかけ人代表として、民主党の小沢鋭仁前環境相は「96 条を見直し、憲法改正に向かいやすい環境を作るべきだ」と発言した。顧問の安倍元首相は「いよいよ厚い壁に穴があく。不磨の大典として長い間宗教的ともいえる信仰の対象になってきた憲法を変える道筋ができた」と喜びを語った。

改憲派は、変化球を投げ国民の目を欺こうとしている。96 条改悪は、平和憲法の土台石を突き崩すことにつながっている。軽視できない動きである。

「原発事故から考える」ミニ学習会を行いました

5 月 21 日（土）に開かれた学習会の参加者は 16 人でした。

星眞人さんから「原子力発電とはどういうものか」が話されました。原子核分裂反応とそこで生み出される膨大な核分裂生成物（死の灰）のこと、広島の原爆のエネルギーは、わずか 1g の質量が変わったものだという話にいまさらながら原発の生み出すエネルギーの大きさにおどろきました。

日本の原発は二種類あり、東電や東北電力は沸騰水型だということです。（加圧水型は関西電力など）どちらの型でも、莫大な数の配管の一本一本、その継ぎ目の一つ一つまで巨大地震に耐えうる強度にすることは、経済的につりあわないということでした。そのうえ原子炉運転中に生み出される核分裂生成物（死の灰）を無害化する方法はなく、どこかにためて、何十年も冷やし続けなければならないのです。さらに放射線は何千年、何万年も出つづけます。「地中深く埋めてしまえ」という乱暴な話も現にあるというのですが、結局、子孫に大変な危険を押し付けることになるのです。

つぎは庭田盛範さんの「原子力発電所の現状とプルサーマルとは」でした。日本に原発は 54 基（柏崎刈羽は 7 基＝世界最大）あり、そのうち 16 基でプルサーマル運転をしているといいます。プルサーマルは危険だと言われながら、こんなに多くの原発で行われていたなんて、これも「安全神話」のせいかと思います。　そのうえさらに、14 基新設する計画といいます。「えっ、そんなばかな？」というのが率直な気持ちです。

中島哲宏さんからは巨大地震のおきる理由は地球表面をおおうプレートのせめぎあいにあるという理論の解説と「日本ほど原発の設置と地震帯が重なっている国はない」ことが語られました。

質疑の時間が十分取れないうらみもありましたが、総じてまとめますと、ひとつは政府・東電は重大なことを隠しているのではないかということ、そしてもうひとつは「除染」というが死の灰＝放射能は消せないのだから、ただ別の場所に移動させただけで何も解決していないということでした。以上、少人数ながら活発な学習会になりました。

平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、
皆でつなぐ、平和のメッセージを！

ロボットによる人間殺害は許されるか

板橋育夫（新町）

2001 年 10 月 7 日、米国は国際テロ組織アルカイダのビンラディン容疑者をかくまたとして、アフガニスタンへの「対テロ戦争」を開始しました。あれから１０年になりますが、その解決の行く先は見えません。
アフガンでの米兵の死者は 1212 人（2010 年 9 月現在）、イラク・アフガン戦争の戦費の総額は 3 兆ドル（約 250 兆円）の巨額に上っています。道路爆弾の攻撃を受け、脳細胞にダメージを受けた兵士の救済にかかる費用は、どれほどになるのか試算もされていないようです。
兵士に犠牲が出ず、安上がりで効果的な兵器として考え出されたのが、「無人機爆撃機」です。アフガニスタンでは、パイロットが乗らない飛行機が連日、昼夜を問わず出撃しています。操縦者はアメリカ国内の軍事基地で、人工衛星から送られてくる画像を見ながら発射ボタンを押します。
戦闘員なのか、民間人なのか判別がつかないのに、攻撃ボタンを押す事例が多発し、国連人権理事会で大問題となりました。ロボットによる人間殺害は、これまでの戦争の概念を根本から変えました。「超法規的処刑、即決処刑、恣意的処刑、大量処刑」が、ただ一人の操縦者の手によって行われます。本人は、画像を見ているだけなので、痛みを感じることはないでしょう。だが、「ロボットが人間を殺戮していいのか」という、倫理問題が浮上してきました。
国連人権理事会は、特別委員会を作り、この問題を検討しています。致死力を持った攻撃が完全に自動化されることが許されるとしたら、戦争はどこまで行ってしまうのか分からなくなってしまいます。米国の無人機攻撃は、アフガン戦争だけの問題ではありません。人類全体の問題なのです。

個人が実践してこそ先進国

綿貫隆重（吉岡町）

朝ドラの戦中時代、肉親を戦場に送る悲しみ、悔しさ、赤紙が来れば抵抗の手段などなく、じっと耐えて送り出す。
そういう戦争をしないと決めてあるのが、日本の憲法です。難しいことではなく「人殺しはしない」。戦争はしないのだから軍隊はいらない。そういうことです。
この崇高な憲法 9 条を変えたい、という動きがマグマのようにうごめいています。
60 年安保を経験した政府は、数十年かかって、いろんな運動が委縮するように仕組んできました。学生運動も、先鋭化させて国民にそれを見せつけてから一気に取り締まる。組合活動も同様に変質させ、国民全体も委縮させられてしまいました。
いとも簡単になぜ、委縮させられてしまったのか、日本の国民性にあるとおもいます。
戦前は、特高警察と「隣組」による監視体制が徹底していました。隣組は江戸時代の 5 人組で組織化され、自治と云う名のもと、為政者にどう従わせるかキリシタン取り締まりに名を借りた強力な監視体制でした。この為政者に対する無批判絶対服従の社会体制が江戸時代から明治大正昭和と数百年も続いたのです。この体質が日本人の骨の髄までしみ込んでしまいました。
知っていることと行動とを自然に区別し「本音と建前」を使い分け、波風を立てない、「変にわきまえた日本人」が各人の心の中で幅を利かせているのです。
この特性から抜け出し、議論し束ねて少しずつ大きな輪となって、初めて力になります。動き続けなければ押し切られてしまいます。民主国家の主人公になるのは動き続けることではないでしょうか。

＊＊＊

新成人のみなさんに「憲法９条大好き、戦争きらい！」の宣伝を行ないました

63 回目の憲法記念日の 5 月 3 日 秋葉区成人式会場（市民会館）前で、成人式に参加するみなさんに「憲法 9 条の大切さ、2 度と戦争を引き起こさないために憲法 9 条を守りましょう」と訴えました。参加者は 14 名でした。